

自分が使っている言葉について

おはようございます。先週は期末考査でした。運動会、部活動の総合体育大会があり、その中で学習の準備をするのは、3・2年生にとって、時間の使い方やものごとを両立していく難しさを教えてくれた時間だったのではないのでしょうか。1年生は、初めての9教科のテストでした。今週は結果が返却されています。テストですから、点数で皆さんの学習の成果を表現しますが、テストは学習の成果の一面でしかありません。大切なのは、この期末考査で何点とれたか、ではなく、どこが間違っていたのかをきちんと振り返ることです。振り返り、学び直すことで、学習が定着します。満点以外は、99点でも55点でも、間違えがあったということですから、きちんと学習し直していきましょう。次のテストで成果を発揮するためには、この第一歩が肝心です。

今日は、言葉について、話をします。

私は、使ってはいけない言葉があると思っています。それは、あなたの「よき」を一遍に失う「死ね」「消えろ」「うざい」「ばか」とかといった、人格を否定する汚い言葉です。このような汚い言葉を使っているときの人の心とは、どうでしょうか。私は、心が荒んでいる時にこのような言葉が出てくると、感じています。人は、理屈では悪いことや、やってはいけないことを理解しています。事実、事故が起きた時の加害者が、「悪いとは知っていた。でもやってしまった。」という話をする様子を見ることがあります。分かっているのになぜ、起きてしまうのでしょうか。

人は意識的に自分の行動の善し悪しを、行動する前に考えて行く習慣を付けていかなくはいけません。自分をコントロールしたり、セーブすることです。その最も重要な行動が、言葉だと思うのです。他人を傷つける行動をとる時、まずは汚い言葉を使います。時に言葉によりいじめにもつながります。仮に、特定の人に言った言葉でなくても、汚い言葉の拡散—これは、SNSにおいてもですが、周囲は聞いているだけで、不愉快な気持ちになったりします。

さて、ここからが私が一番、皆さんに伝えたいことです。

汚い言葉「死ね」「消えろ」「うざい」「ばか」とかという言葉を使ったときに、一番近くで聞いているのは、自分です。他人に向かって、その言葉を浴びせているつもりでも、実は自分自身に言っているのと同じなのです。自分の気持ちや行動をコントロールできない結果は、最終的には自分に影響が及ぶことを知ってほしいと思います。

今月は、ふれあい月間ですので、いじめに関するアンケートをいつも以上に丁寧に確認しています。「行為を受けた人が、苦痛を感じている場合」は“いじめ”です。いじめやと思う気持ちがある、ないではなく、他人がどう感じたか、が判断基準です。

この機会に、改めて自分の使っている言葉について、じっくりと考えてみてください。